

資料編

- 1 策定の経過
- 2 市民意見の募集結果について
- 3 事業個票
 - 上水道事業
 - 工業用水道事業
 - 下水道事業
 - 共通事業
- 4 用語解説



1 策定の経過

本計画の策定にあたっては、水道事業・下水道事業・公営企業経営の専門家や関係団体などで構成する「北九州市上下水道事業審議会」において、さまざまなご意見をいただきながら検討してきました。また、お客さまアンケート調査等による多くのご意見も踏まえながら、計画を策定しました。

(1) 北九州市上下水道事業審議会

委員名簿（五十音順、敬称略）【 ◎：会長 ○：副会長 】

氏名	所属等
うまみち あや 馬道 彩	国際協力機構 九州センター 企業連携課 課長補佐 兼 企画役
おぼた ゆきこ 小畑 由紀子	北九州市食生活改善推進員協議会 会長
※ おはら まさし 尾原 正史	日本水道協会 大阪支所長
きくち ひろこ 菊池 裕子	元 九州共立大学 経済学部 教授
◎ ごとう うじょう 後藤 宇生	北九州市立大学 副学長
ごんどう きみえ 権頭 喜美恵	社会福祉法人もやい聖友会 理事長
さいとう まき 斉藤 磨希	公募委員
さとう ゆうや 佐藤 裕弥	早稲田大学 研究院 准教授 早稲田大学 総合研究機構 水循環システム研究所 主任研究員
はたの たかし 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
はやしだ ゆうこ 林田 祐子	北九州市環境衛生総連合会 理事
○ ふくち まさよし 福地 昌能	福地公認会計士事務所 所長
みぞうえ せいや 溝上 誠也	公募委員
もほら のぶゆき 茂原 伸幸	日本下水道協会 経営・研修部長
※ やまの かずや 山野 一弥	日本水道協会 大阪支所長
よしもと なつこ 吉本 奈津子	元 北九州市上下水道モニター

※山野氏は令和6年度まで参加、尾原氏は令和7年度から参加

開催経過

年度	開催日	内容
R6	第1回 令和7年3月24日	計画の位置付け、施設の状況、事業環境、財源、経営状況等
R7	第1回 令和7年8月5日	施設の状況、事業計画概要
	第2回 令和7年11月5日	中期経営計画（事務局案）
	第3回 令和7年12月17日	中期経営計画（素案）

(2) 上下水道に関するお客さまアンケート調査結果について

①時期

令和7年1月調査実施（前回 令和元年10月調査実施）

②対象

北九州市、芦屋町及び水巻町 3,000人（無作為抽出）

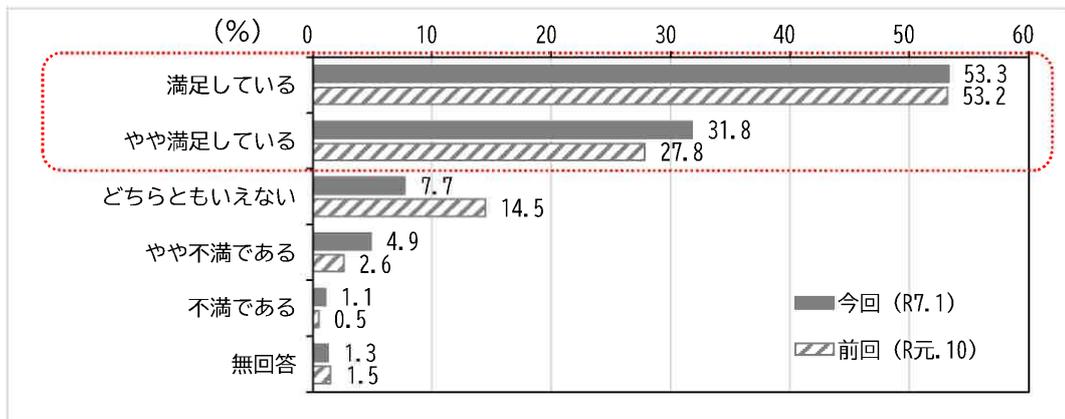
⇒回答 937人、回答率 31.2%

③調査結果（主な項目）

○満足度

満足度（「やや満足している」を含む）は前回より上昇。

■ お客さまアンケート 問1より



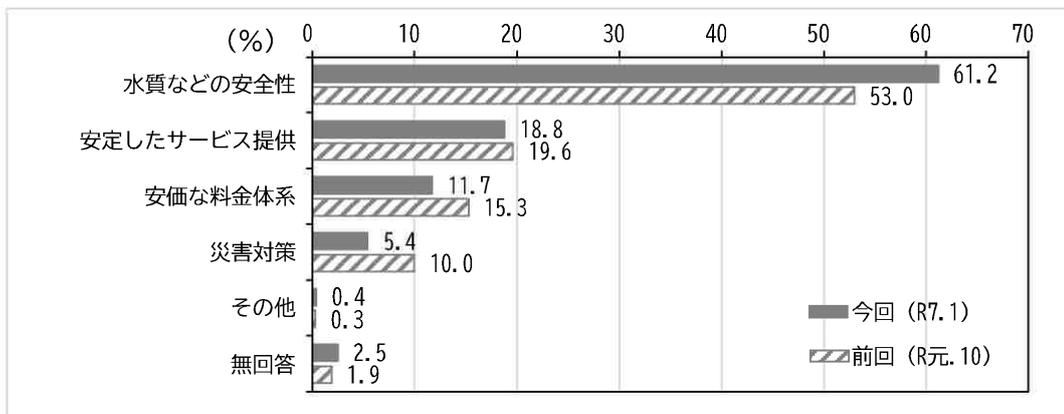
「満足している」 + 「やや満足している」

前回：81.0% ⇒ 今回：85.1% (+4.1ポイント)

○厳しい経営環境を踏まえ、最も重視する項目

水道水の水質などの安全性を最も重視。

■ お客さまアンケート 問4より



2 市民意見の募集結果について

(1) 意見募集期間

令和8年1月16日から令和8年2月16日まで

(2) 意見提出状況

①提出者数 3人

②提出意見数 18件

③提出された意見の内訳

項目	件数
計画全般について	2件
事業計画について	13件
「将来像1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる」について	3件
「将来像2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける」について	1件
「将来像3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する」について	2件
「将来像4 国内外へ貢献していく」について	6件
「将来像5 お客様が求めるものをかたちにする」について	1件
「将来像6 培われた高い技術を未来へつなぐ」について	5件
「将来像7 健全な経営を行う」について	1件
財政計画について	0件
その他	3件
計	18件

(3) 計画への反映状況

反映結果	件数
計画に掲載済	3件
計画に追加・修正あり	0件
計画に追加・修正なし	12件
その他	3件
計	18件

3 事業個票

(1) 上水道事業

重点施策：9、実施事業：19（再掲除く）

将来像		重点施策	実施事業		資料編 ページ			
1	市民生活を支える 強靱な上下水道を つくる	1-1 上下水道施設の 長寿命化と 改築・更新	1-1-1	アセットマネジメント手法を活用した 効率的・計画的な更新	6~9			
			1-1-2	上下水道施設の規模の最適化	10			
		1-2	豪雨対策の 拡充・強化	1-2-2	上下水道施設の豪雨対策	11		
		1-3	震災対策の 拡充・強化	1-3-1	上下水道施設の耐震化	12~14		
				1-3-2	バックアップ機能の強化	15		
		1-4	危機管理体制の 充実・強化	1-4-1	事故対応能力の向上	16		
				1-4-2	民間事業者や他都市等との連携強化	17		
				1-4-3	停電対策	18		
				1-4-4	災害時における機能確保の推進	19		
		2	いつでも安心して 飲める安全な水を 届ける	2-1 水源を守るための 取組	2-1-1	水源の保全	20	
2-1-2	遠賀川の水質保全				21			
2-2 取水から蛇口 までの水質管理	2-2-1			安全な水対策	22			
	2-2-2			水源や浄水場を有効に活用した水の 供給	23			
	2-2-3			直結式給水の普及促進や小規模貯水槽 水道の管理指導	24			
	2-2-4			水質管理体制の充実	25			
	3			環境負荷の低減を 図り、持続可能な 社会に貢献する	3-1 環境負荷に配慮 した事業の推進	3-1-2	再生可能エネルギーの活用	26
						3-1-3	省エネルギーの推進	27
3-1-4		資源の有効利用	28					
7	健全な経営を行う	7-1 効率的・計画的な 事業運営	7-1-1	上下水道施設の規模の最適化（再掲）	-			
			7-1-2	アセットマネジメント手法を活用した 効率的・計画的な更新（再掲）	-			
		7-2 多様な収入の確保	7-2-2	水道・工業用水道利用促進対策	29			

将来像 1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

重点施策 1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新

重点施策 1-2 豪雨対策の拡充・強化

重点施策 1-3 震災対策の拡充・強化

重点施策 1-4 危機管理体制の充実・強化

【上水】

事業名	1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新（浄水場）				
取組内容	<p>浄水施設では近年、老朽化や機能低下が進行しており、施設を健全な状態に保ちながら、施設更新費の削減と予算の平準化を目指すための長寿命化を計画的に推進していく必要があります。</p> <p>長寿命化にあたっては、必要に応じて耐震補強により耐震化を実施し、効率的な施設整備を行うよう計画しています。</p> <p>浄水施設の適切な維持管理により、安全性・信頼性を確保しながら長寿命化や更新などを着実に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本城浄水場、畑浄水場の長寿命化 ・建築物及び貯水池の長寿命化 ・長期整備計画に基づく浄水設備の更新 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">【施工前】 【施工後】</p> <p style="text-align: center;">長寿命化工事（構造物の修復状況）</p>				
目 標	R6 実績 浄水施設の長寿命化		R6 実績 3 箇所 (R3~R7 計画 5 箇所)	→	R12 末目標 2 箇所 (R8~R12 計画)
目標の設定根拠 (参考)	<p>浄水施設の長寿命化は、井手浦・穴生・本城の3基幹浄水場の施設群を優先的に実施しており、本計画期間で3基幹浄水場が完了する予定です。続いて、畑浄水場の長寿命化へ移行していきます。</p>				
年次計画	R8	R9	R10	R11	R12
浄水施設の長寿命化	本城浄水場、畑浄水場の長寿命化				➤
浄水設備の更新					➤
効 果	<p>水道施設の機能をできるだけ長く維持するとともに、ライフサイクルコストの最小化と平準化を図ることで、安定した事業運営ができるようになります。</p>				

将来像 1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

重点施策 1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新

重点施策 1-2 豪雨対策の拡充・強化

重点施策 1-3 震災対策の拡充・強化

重点施策 1-4 危機管理体制の充実・強化

【上水】

事業名	1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新 (水道管路)				
取組内容	<p>○導送水管 導送水管は、更新基準年数や事故時の影響戸数、他系統の応援体制等を含めて総合的に評価し、優先順位の高い管路や事故発生時に社会的影響が大きい緊急輸送道路下の経年管等を対象に、耐震化とあわせて更新を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導送水管更新 L=4.6 km <ul style="list-style-type: none"> ① 本城～穴生浄水場導水管φ800 ② 小嶺系送水管φ500 など <p>○配水管 配水管は、令和12年度までに更新基準年数を迎える配水管のうち、A Iを用いた水道管路劣化診断により漏水確率が高いと判定された管路や、事故発生時に社会的影響が大きい緊急輸送道路下の経年管等を対象に、耐震化とあわせて更新を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配水管更新 L=180.0 km (年間 36.0 km) うち配水本管 L=12.5 km (年間 2.5 km) <p>また、導送配水管について、ダクティル鑄鉄管を除く鑄鉄管更新計画を策定し、国道等の緊急輸送道路下に埋設されている鑄鉄管の更新を優先的に取り組みます。</p>				
目 標	R6 実績		R12 末目標		
導送水管更新	3.6 km (R3～R7 計画 6.7 km)		➔	4.6 km (R8～R12 計画)	
配水管更新	126.4 km (R3～R7 計画 185 km)		➔	180 km (R8～R12 計画)	
目標の設定根拠 (参考)	導送水管	管路の総延長 425 km (令和6年度末) を対象に、布設年次や事故時の影響等を総合的に評価し、更新優先度の高い管路や緊急輸送道路下の経年管を対象に更新・耐震化に取り組みます。			
	配水管	管路の総延長 4,244 km (令和6年度末) を対象に、令和12年までに更新基準年数を迎える配水管を抽出し、A Iを用いた水道管路劣化診断により漏水確率が高い管路や、緊急輸送道路下の経年管を対象に更新・耐震化に取り組みます。			
年次計画	R8	R9	R10	R11	R12
導送水管更新			4.6 km	➔	
配水管更新			180 km	➔	
効 果	劣化度や重要度に応じて優先順位をつけて更新を行うことで、ライフサイクルコストの最小化と平準化を実現し、安定した事業運営につなげます。				

将来像 1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

重点施策 1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新
 重点施策 1-2 豪雨対策の拡充・強化
 重点施策 1-3 震災対策の拡充・強化
 重点施策 1-4 危機管理体制の充実・強化

【上水】

事業名	1-1-1 アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新 (漏水防止対策)				
取組内容	<p>漏水の早期発見に取り組み、漏水量の削減を図るとともに、漏水に起因する 2 次被害の防止を図ります。</p> <p>○漏水調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配水ブロックで異常水量を検知した際などに漏水箇所を緊急的に発見する調査（緊急漏水調査）や、漏水量が増加していると推定される配水ブロックを対象とした漏水調査（計画的漏水調査）を実施していきます。 ・上下水道DXとして、衛星データをAIで解析して漏水可能性エリアを推定する漏水調査を検証し、デジタル技術の導入による効率的な点検調査に本格的に取り組めます。 <p>○配水管更新（再掲）</p> <p>配水管は、令和12年度までに更新基準年数を迎える配水管のうち、AIを用いた水道管路劣化診断により漏水確率が高いと判定された管路や、事故発生時に社会的影響が大きい緊急輸送道路下の経年管等を対象に、耐震化とあわせて更新を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配水管更新 L = 180.0 km（年間 36.0 km） うち配水本管 L = 12.5 km（年間 2.5 km） 				
目 標	R6 実績		R12 未目標		
目標の設定根拠 (参考)	過去の漏水率の最小値は6.1%であるため、それ以下の6.0%を目指します。				
年次計画	R8	R9	R10	R11	R12
漏 水 調 査	緊急・計画的漏水調査の実施				漏水率 6.0%
	衛星とAIを用いた調査の実施及び検証		衛星とAIを用いた調査の本格実施		
配水管更新 (再掲)			180 km		
効 果	漏水防止対策の推進により、安全で安定的な給水を確保するとともに、環境負荷の低減にも貢献します。				

将来像 1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

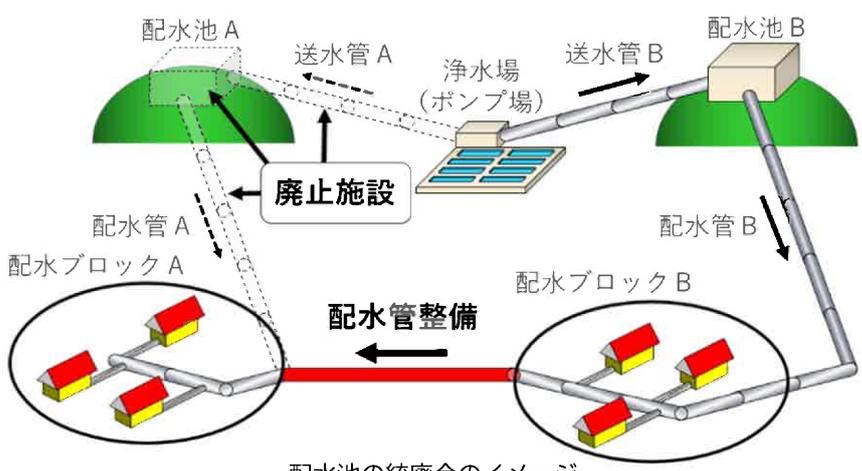
重点施策 1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新

重点施策 1-2 豪雨対策の拡充・強化

重点施策 1-3 震災対策の拡充・強化

重点施策 1-4 危機管理体制の充実・強化

【上水】

事業名	1-1-2 上下水道施設の規模の最適化				
取組内容	<p>【配水池の統廃合】</p> <p>水需要が低下し、また、老朽化が進み更新時期を迎える配水池を対象に、配水池や送水管、配水管などのライフサイクルコスト（LCC）を考慮し、配水池の統廃合を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川配水池 ⇒ 沼配水池ほかに統合 令和12年度末までに黒川配水池を廃止 整備内容：配水管整備 φ250 L=1.5kmなど 				
目 標	配水池の統廃合	R6 実績 尾倉・黒川配水池 工事実施	→	R12 末目標 黒川配水池廃止	
目標の設定根拠 (参考)	配水池の統廃合	<p>黒川配水池は昭和46年に築造され、令和13年度に法定耐用年数である60年を迎えます。水需要の低下や規模と機能を見直す中で、配水池や管路の改築・更新費用も含めて検討した結果、本計画期間内で黒川配水池を廃止し、沼配水池などと統合することとしました。統合に必要な配水管の整備延長約2.1kmのうち、令和7年度までに0.6kmを整備する予定です。本計画期間では、残りの1.5kmの整備などを行います。</p>			
年次計画	R8	R9	R10	R11	R12
配水池の統廃合	整備工事				ブロック切替
効 果	<p>改築・更新費用を削減するとともに、将来の維持管理費の削減にもつながり、安定した事業運営ができるようになります。</p>				

将来像 1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる

重点施策 1-1 上下水道施設の長寿命化と改築・更新

重点施策 1-2 豪雨対策の拡充・強化

重点施策 1-3 震災対策の拡充・強化

重点施策 1-4 危機管理体制の充実・強化

【上水】

<p>事業名</p>	<p>1-2-2 上下水道施設の豪雨対策</p>				
<p>取組内容</p>	<p>近年、様々な自然災害の激甚化・頻発化が指摘されており、水道施設においても安定給水を維持するための対策が求められています。</p> <p>そこで、最新のハザードマップ*などから被害の発生が想定される主要な水道施設に対して、あらかじめ有効な防災・減災対策を講じることで、被害の最小化を図ります。</p> <p>【浸水災害対策】 浸水災害が想定される施設を対象に止水堰や防水扉等を整備</p> <p>【土砂災害対策】 土砂災害が想定される施設を対象に土砂流入防止壁等を整備</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>止水堰 かさ上げ 防水扉</p> <p>浸水災害対策イメージ図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土砂災害対策イメージ図</p> </div> </div> <p>※国土交通省HPより</p>				
<p>目 標</p>	<p>豪雨対策施設整備</p>		<p>R6 実績 5 箇所 (R3～R7 5 箇所)</p>	<p>R12 末目標 5 箇所 (R8～R12 計画)</p>	
<p>目標の設定根拠 (参考)</p>	<p>ハザードマップを基に被害想定の影響範囲や施設の重要度等を考慮し、計 10 箇所を対策します。このうち 5 箇所は前計画期間に実施しており、本計画期間で 5 箇所実施します。</p>				
<p>年次計画</p>	<p>R8</p>	<p>R9</p>	<p>R10</p>	<p>R11</p>	<p>R12</p>
<p>浸水災害対策・ 土砂災害対策</p>			<p>5 箇所</p>		
<p>効 果</p>	<p>大規模な災害が発生した場合においても、水道施設が甚大な被害を受けることなく水道水の安定給水を継続します。</p>				